

## 動物資源生産学特論実験（一）(2単位)

担当者氏名 相馬 幸作、白木 彩子、平山 博樹

### ◆学習・教育目標（到達目標を記載）

動物資源の増殖、生産、管理、保全に関する実験、演習を行う。具体的には動物細胞の培養、DNA解析、酵素の抽出、動物飼育・管理、鳥類の調査、遺伝子実験の基礎知識、各分野関連論文の読解と解説を通じて、動物資源生産分野に関連する研究の遂行について学ぶ。

### ◆取り扱う領域（キーワードで記載）

家畜の保定                      試料採取法                      痕跡学                      生化学的処理法  
鳥類の野外調査手法              生態データ解析法

### ◆授業の進行等について

	テ ー マ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	鳥類生息状況調査法(第1~2週、白木)	野外のさまざまな環境下で、目的に応じた鳥類の生息状況に関する調査手法について実践的に学ぶ。	野外調査実習で得られたデータを用いて統計解析を実施し、その結果をレポートで提出する。
2	鳥類の行動調査法(第3週、白木)	野生鳥類の行動パターンに関する調査手法について実践的に学ぶ。	
3	生態データ解析法(第4~5週、白木)	野外調査で得られたデータの統計解析手法について学ぶ。	
4	大型動物の保定法と血液・毛根サンプルの採取法と保存法(第6~8週、平山)	大型動物からのサンプル(血液および毛根)の採取方法(保定方法と採取方法)、サンプルの保存方法について実践的に学ぶ。	大型家畜からの採材法をと分析方法を中心に学ぶため、サンプル採取時は作業しやすい服装で臨むこと。
5	理化学的解析法(第9~10週、平山)	採取したサンプルを用い、理化学的解析方法について学ぶ。	
6	飼料の評価方法と飼料設計(第11~14週、相馬)	飼料の一般成分とサイレージの発酵品質の分析および評価方法、分析結果を基にした飼料設計について実践的に学ぶ。	飼料分析の方法について、プロトコルを確認しておくこと。また、
7	飼料生産の実際(第15週、相馬)	実際の飼料生産施設の現地見学を行う。	生産現場の見学の際、事前に畜産の衛生管理の取組みについて調べておくこと。

### ◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名/著者/発行所(発行年)

レジメや資料を講義中に配布する。

### ◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所(発行年)

配付資料をよく読むこと。

### ◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

レポートや課題への取り組み状況、授業への参加態度で評価する。

### ◆オフィスアワー

実験終了後、研究室で質問を受け付ける。

### ◆その他受講上の注意事項

・連続した演習内容であるため、調査や学会等でやむを得ず欠席する場合は、事前に申し出ること。